

乳癌の腋窩リンパ節郭清を回避するための実験的研究

2022年1月から2023年12月までに乳癌のために手術治療を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「乳癌の腋窩リンパ節郭清を回避するための実験的研究」という研究を行います。この研究は、2022年1月1日より2023年12月31日までに日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科にて、原発性乳癌のために外科治療を受けられた患者さんの腋窩組織を利用する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：乳癌の腋窩リンパ節郭清を回避するための実験的研究

研究期間：2022年1月1日より2023年12月31日

研究責任者：日本医科大学武蔵小杉病院 乳腺外科 蒔田益次郎

(2) 研究の意義、目的について

現状では1個でもリンパ節転移があれば腋窩を郭清するというのが原則になりますが、少数個の腋窩リンパ節転移症例に対して腋窩郭清を回避する方法の確立のために、これまでの症例を調査した結果、腋窩下部に転移が少ない場合に郭清範囲の縮小が可能ではないかと思われました。今回、乳房から腋窩へのルートは複数存在し、腋窩のあるレベルまで独立性が保たれていること、および転移リンパ節の上流のリンパ節が検出できるかを証明することを目的としました。少数個の腋窩リンパ節転移症例に部分的なリンパ節採取の安全性が確立できれば、腋窩郭清は回避され、患者様は術後のリンパ浮腫など、腋窩郭清による後遺症にさいなまれることがなくなり、QOLが高められるという意義があります。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2022年1月1日より2023年12月31日まで日本医科大学武蔵小杉病院乳腺外科にて、原発性乳癌のために乳房切除術で腋窩郭清を受けられた患者さんの乳房切除標本および郭清後の腋窩組織を利用して、トレーサーといわれるセンチネルリンパ節生検に用いる薬剤を注入してリンパ流の観察を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：乳房切除標本および郭清後の腋窩組織

情報：病理報告書（組織型、浸潤径、脈管侵襲など）、腋窩リンパ節の転移状況、術前の臨床所見、等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学武蔵小杉病院 乳腺外科 臨床教授 蒔田益次郎

〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町1-383

電話番号：044-733-5181（代表） 内線：3135

メールアドレス：m-makita@nms.ac.jp